

国宝

鼉太鼓

この一對の太鼓は、毎年春日若宮おん祭りで、伝統的な宮廷舞踊の一種である舞楽の伴奏で使用されていた。この太鼓は 1200 年に作られ、1976 年まで使われていた。現在は、代わりに再現されたものが使われている。

舞楽は「左舞」と「右舞」の 2 つの舞で構成される。左舞は中国に由来し、右舞は朝鮮半島と関係がある。したがって、この一對の太鼓にも「左」と「右」があり、それぞれの舞に対応する太鼓が使われた。

左右の区別は、太鼓の彫刻やその他の装飾にも反映されており、そこには陰陽のシンボルも含まれている。陰陽の相反する力の組み合わせに倣って、右の太鼓の鳳凰と月は受動的で女性的な陰を表し、左の太鼓の龍と太陽は活動的で男性的な陽を表している。

太鼓の高さは、大きな日輪と月輪を含めて約 6.5 メートルになる。春日大社の絵図は、太鼓がかつてもっと背の高いフィニアルを備えていたのが描かれているが、1886 年の火災で焼失し

ている。